

古文書修復 ビフォア・アフター

小平の古文書

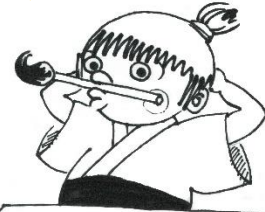
小平市中央図書館は昭和 50 年の開館以来、約 3 万点の古文書を整理してきました。特に小平市域で最初に開かれた小川村の名主家『小川家文書』は、総数 1 万点を超え、東京都の文化財にも指定されています。

古文書の修復

図書館では平成 2 年から平成 18 年まで古文書の修復事業を継続して行い、およそ 1500 点の古文書を修復しています。令和 4 年度、都の補助金を得てこの事業を再開し、小川家文書から 42 点を「リーフキャストイング」等の技法で修復しました。

リーフキャストイングとは

古文書の修復方法の一つ。虫食いや汚破損・欠損の見られる資料に対し、紙漉きの原理で修復用繊維（国産楮）を流し込み修復する方法。元の紙の厚さを維持し、修復過程で汚れやほこりが洗浄され文字が読みやすくなる。紙を漉き直すため虫食いや汚破損のない状態に戻る。修復の費用・時間が軽減される。などの利点があります。



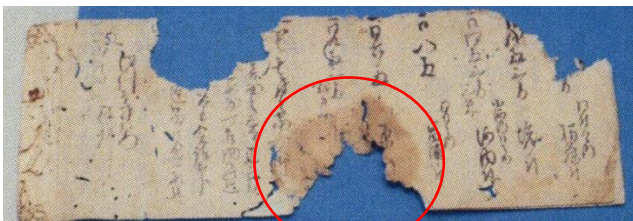
修復への道



修復例 ①

(写真提供 東京修復保存センター)

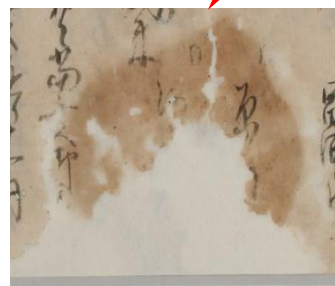
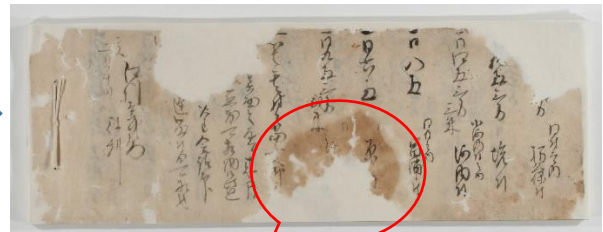
〔BEFORE〕 茶色いシミ部分が欠損



拡大図



〔AFTER〕 全体的に欠損箇所が埋められた



修復例 ②

〔BEFORE〕 表紙に※柿渋が塗られている

〔AFTER〕 柿渋の風合いを残して修復

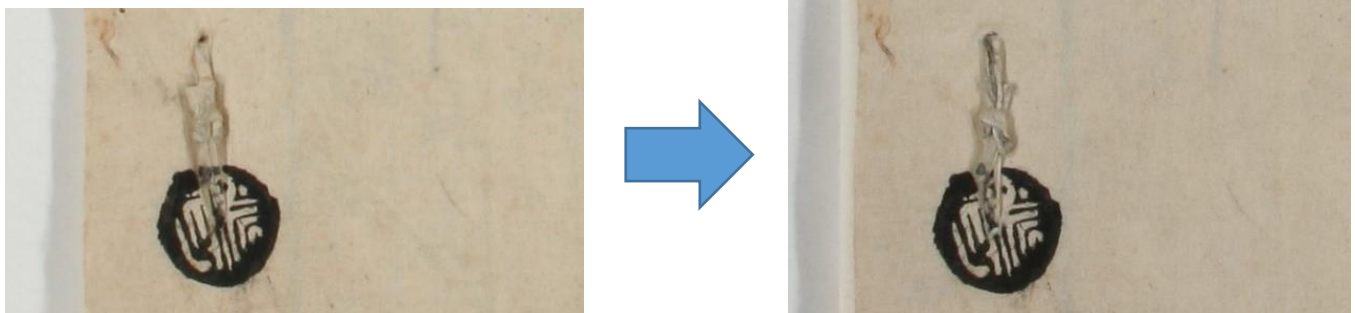


角の折れ、虫食いによる欠損がきれいに修復されています。この文書は表紙に柿渋が塗られているため、リーフキャストによる修復ではなく手作業で補修されています。原資料の風合いを敢えてそのまま残す方法です。
※（柿渋…柿タンニンには防水・防腐・抗菌作用があり、古くから建築資材や紙、石鹼などに用いられました。）

修復例 ③

〔BEFORE〕

〔AFTER〕



一見して補修の跡が見られませんが、実は綴じ紐を新しく付け替えています。割り印が押された紙縫りの表面のみ丁寧にはがし、新しい綴じ紐に巻くという離れ業です。